

自己評価報告書

平成23年5月10日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520638

研究課題名(和文) ホームランド・ナショナリズムと国境地域の民族的マイノリティをめぐる考察

研究課題名(英文) Homeland nationalism and the minorities in the German - Polish borderlands.

研究代表者

川手 圭一 (KAWATE KEIICHI)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：50272620

研究分野：ドイツ近現代史

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：ドイツ、ポーランド、マイノリティ、国境、フォルク、ナショナリズム、

1. 研究計画の概要

本研究は、第一次世界大戦後のドイツ・ポーランド間に新たな国境が引かれる中で立ち現れたホームランド・ナショナリズムをめぐる、これを、ドイツ人・ポーランド人の国境地域住民の側から分析・検討することを目的としている。

- (1) ドイツ側におけるマイノリティ政策、民族政策に関する分析・検討
- (2) ポーランド側におけるマイノリティをめぐる諸問題の検討
- (3) ドイツ・ポーランド国境地域における住民の動向

2. 研究の進捗状況

本研究は、2010年度で3年目を終えた。これまで数度の現地における調査を行い、本研究に関する史料を、ドイツ、ポーランドの公文書館、図書館、研究所において収集した。とりわけ、かつての東プロイセン、西プロイセンに関してはドイツ人とポーランド人の関係をめぐっては、興味深い問題が多くあり、精力的に分析・検討を行っている。

3. 現在までの達成度

本研究は、2010年度まで、ドイツ、ポーランド両国における史料の収集を進めてきた。特に2010年度は、東プロイセンに関して、2度にわたり、プロイセン文化国立文書館(Geheimes Staatsarchiv Preußischer Kulturbesitz)(ベルリン)を行い、1920年

代を通じて東プロイセンのマイノリティ問題に関してベルリンに送られた多くの興味深い史料を収集することができた。

4. 今後の研究の推進方策

2011年度は本研究の完成年度である。過去3年間に行ってきた調査でまだ不備のあるポーランド側の史料を補足的に収集するとともに、集めてきた史料の分析・検討を行い、これを報告書にまとめ、研究成果の公表にむけた準備を進める。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

川手 圭一「第一次世界大戦後「自由市ダンツィヒ」のポーランド人マイノリティをめぐる政治的・社会的位相」『東京学芸大学紀要人文社会科学系Ⅱ』第60集(2009年)、73～83頁。

[学会発表] (計1件)

Kawate Keiichi, Historical reconciliation between German and Poland as seen from a Japanese perspective: the thoughts of a Japanese historian and their development. (International Symposium: Shifting Recreations of European and Asian "Others" in East Asian Schoolbooks, Heidelberg, 2009).

〔図書〕（計 2 件）

共著（川手圭一ほか）『ヨーロッパ学への招待』（学文社、2010年）

共著（Kawate Keiichi et al）Designing History in East Asian Textbooks : Identity politics and transnational aspirations (Routledge, London / New York, 2011).